

4. P I 評価委員会の助言と対応

- 福岡空港構想・施設計画段階 P I 評価委員会の助言と対応

○ P I 評価委員会の助言と対応

日時	活動	助言	対応
H22/8/27	説明会 (福岡市役所 15 階講堂)	(所見) ・ 説明会は、夕方にも関わらず多数の市民の参加が得られ、P I の趣旨はある程度達成されていると考えられる。しかし、市役所・区役所のポスター貼付、P I 冊子の備置は限定的で、市民への説明会開催の案内がどこまで、届いていたかについては、やや疑問が残った。 ・ 会場の音声、進行、空調などは問題ないと思われたが、会場に比して、プロジェクターの投影が小さいため、後では良く見えないところがあった。(投影図と説明が、詳細版と通常版にまたがって行われているため、投影図を参考にしながら、パンフレットを参照することがあるが、よく見えないと、パンフレットの箇所が分かりにくい)。 ・ 質問への回答ではどうしても専門用語も入ってくるが、早口になったときは、聞き取りにくい面もあったように思われる。専門用語の時は、特にゆっくり回答の方が良いと思われる。 (アドバイス) ①質問でもでていたが、東側のセットバックについては、前の段階の説明とも関連するので、他の会場でもあらかじめ、説明しておくことが親切と思われる。	①東側並行誘導路の二重化については、今回お示しした滑走路増設案とは別個に事業の検討をしているところであり、これまでの経緯をご存じでない場合、かえって混乱する可能性があるため、P I レポートの説明では触れず、質問があった場合に丁寧な説明を行っております。
H22/9/1	懇談会 (物流関係企業、荷主等)	(所見) ・ 説明・司会・質問に対する回答と、過不足なく進行し、P I 活動の習熟を感じました。すでに滑走路増設案に決定されているため、質問は施設設備内容や実際の施設運営要望等の具体的問題になる傾向があり、単純な施設計画との切り分けが難しい問題だと感じました。 ・ レポート・詳細版の利用がスムーズであり、今回、事前にレポート作成に評価委員会が係わった意味があったと思います。 ・ 事業者としては経営上、今後のスケ	

日時	活動	助言	対応
		ジュール(流れ)が大きな関心事です。その意味で詳細版 42 頁の工期の表示には、着工前に環境アセスメント・用地買収等の諸手続が入るといふ詳細版 53 頁(レポート裏表紙)との繋がりを図に入れ込むことが必要だったと思います。	
H22/9/4	周辺地域説明会 (吉塚会館)	(所見) ・ 今回の説明会は、出席者の関心も強く、主催者側の説明に熱心に耳を傾けているのが印象的だった。 ・ P I ポートの説明は、丁寧でかなりわかりやすかったのではないだろうか。ただ、非精密進入、制限表面、費用便益など専門用語も多く、この点は、わかりにくさも残ったのではないだろうか。これらの用語は、そのまま使うのではなく、かみくだいて、わかりやすい別の表現も試みるなどの努力が必要だろう。 ・ 今後「他説明会でどんな意見が出たのかを知らせて欲しい」などの要望については、きめ細かく対応を考える必要が求められる。	
H22/9/6	懇談会 (エアライン、空港内事業者、旅行者)	(所見) ・ 関係者多数の出席があり、参加者に応じた会場の設営、プロジェクターの準備がされ、適切に開催されていたと思われるが、マイクの影響か、多少説明者の声が聞きづらかった。 ・ 出席者から、活発な意見や質問もでて、非常に有益な意見交換が行われていたと考える。	
H22/9/8	懇談会 (交通事業者、利用企業等)	(所見) ・ 地元経済界、交通事業者など航空関係者十数人が出席。P I レポートをめぐる質疑と同時に、活発な意見交換が行われた。 ・ 騒音、安全性などが中心だった周辺地域説明会に比べ、今回は需要予測、工期、費用などが、出席者の関心ごとで、質疑ももっぱらこうした分野に集中した。 ・ 立場の違いによる関心の違いが出て興味深かった。 (アドバイス) ① 専門家を対象とした説明会、懇談会	①② 助言を踏まえ、司会者に対して事前レクをし、議論を盛り上げ、より理解を深める場となるよう、進め方などを工夫しました。

日時	活動	助言	対応
		の司会は、よく事情に通じた内部の人が務めたほうがよい。 ② 司会者は「他に何かありませんか」を繰り返すのではなく、出席者の意見を整理、論議を盛り上げる工夫が必要だろう。	
H22/9/17	周辺地域説明会 (博多市民センター)	(所見) ・ 出席者 25 名(内女性 7 名)、年代は 60 代を中心に各年齢層の出席がありました。周辺地域で身近な問題ということもありますが、関心のある方が気軽に参加するという本来の P I のあり方でした。ただ、平日開催の説明会は現行より 30 分ほど時間繰り下げる等、サラリーマン等が参加し易い条件づくりに今後とも工夫を続けることが必要でしょう。 ・ 今回は周辺地域ですので質問が騒音や工事など具体的なものに集中していました。この点、これまでの活動の成果から行政側から P I 活動の趣旨(案に関する情報提供)に関して様々な説明が試みられていましたが、やはり一般的には、情報の提供というより、都市計画案の縦覧と同様のものと誤解されているのが実際ではないか、とあらためて思いました。今までのこの種の計画がいかに一方通行だったか改めて考えると同時に、今後、様々な施策に P I 活動を導入することで社会的認知を獲得することが、今回の空港問題に限らず P I 活動を活かすことになると思います。 ・ PI 活動は、時間管理が大事であり、実施側からは短期間に深く、を目標としてきたことと思います。また、これは効果の面から成功していると思います。ただ、最終段階にあたるこの滑走路増設案に関しては、いままでの P I 活動の経緯の中で検討に至ったものであることがどの程度一般に理解を得ているかを掘り下げて検討評価しなくてはならず、その意味では周辺地域に限らない対象者からの意見も大切で、一般説明会はもう少し機会を設けても良かったくらいですので、もし出前説明会の希望があればできる限り	

日時	活動	助言	対応
		実施していただきたいと思います。	
H22/9/18	インフォメーションコーナー (福岡空港)	(所見) ・ 展示はすっきりしていて、展示量も適切である。 ・ 一般的でない用語もあり、少し難しいとの印象もあるが、正確かつコンパクトに説明するためにはやむを得ない。 ・ パネルや小道具(机、パンフレット、飛行機の風船、照明)の配置、声のかけ方のタイミング取りもよく考えられていて、進歩が著しい。 (アドバイス) ①空港P Iは今回が最終であるが、当初からすると格段の進歩である。このノウハウは非常に貴重であり、共有・伝達していくべきものである。その工夫と努力が望まれる。	①事業の進捗により住民等とコミュニケーションが必要な場合や他の事業等でP Iを実施する際に活用していきたいと考えております。
H22/9/18	周辺地域説明会 (大野城まどかびあ)	(所見) ・ 参加者数が7名と少ないことは残念であったが、内容的に充実したものであった。これは以下の理由による。 ・ 説明が丁寧で分かりやすいものであったこと。 ・ 質問は現在の騒音問題に関連するものが多く、必ずしも構想段階P Iとは密接な関連がないものが多かったが、回答が親切、柔軟、丁寧であったため、質問者は回答に納得・満足していたように思われる。このようなコミュニケーションはP Iの信頼性を高めるためにも重要であろう。好感が持てた。 (アドバイス) ①P Iは今後とも必要かつ重要な計画形成過程のステップとなる。今回のノウハウ・成果を共有し、次に活かすことが重要である。 ②質問者が、地元自治体の担当部署に航空機騒音について相談に行ったところ、所掌外であると対応を拒否されたといっていたことが印象的であった。協議会には一見関係無いようであるが、やはり行政内のネットワーク構築が不十分であったと考え、この点の工夫を望みたい。	①事業の進捗により住民等とコミュニケーションが必要な場合や他の事業等でP Iを実施する際に活用していきたいと考えております。 ②福岡空港に関係する行政機関同士の情報共有等が密となるよう心がけて参ります。

日時	活動	助言	対応
H22/9/19	周辺地域説明会 (松島会館)	(所見) - 参加者 11 名、うち女性 2 名 - 説明の進行が少し速いような気がする。騒音に関する離着陸に関する部分は、専門用語が多数登場するので、少しゆっくり話した方がよい。 - 説明会開催場所についてクレーム有り。開催場所の選定、住民への周知の方法については再考の余地あり。	